

令和 8 年度

大川市総合教育会議議事録

令和 8 年 8 月 2 4 日

令和 8 年度大川市総合教育会議

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分

閉会 16時15分

2. 出席者

市 長	江藤 義行
教 育 長	横大路 智毅
教育長職務代理者	谷川 朋昭
委 員	今村 秀一
委 員	木下 明子
委 員	大内田 友美

3. 事務局等の出席者

人事秘書課長	山口 馨
総務課長	龍 健司
企画課長	辻 悟
学校教育課長	緒方 範子
学校教育課主幹指導主事	石橋 佳明
学校教育課指導主事	下川 勝彦
〃	古賀 孝志
生涯学習課長	永島 潤一
生涯学習課社会教育主事	松延 聡

4. オブザーバー

大川市小学校校長会長	宮崎 昌人
大川市中学校校長会長	鶴 由恵
大野島小学校校長	原尻 健司

5. 傍聴者

4名

6. 報告事項

(1) 学校における働き方改革について

7. 協議事項

(1) 第2期大川市教育大綱の期間延長について

(2) 少子化における大川市立小・中学校の在り方について

○緒方学校教育課長

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

只今より令和8年度大川市総合教育会議を開会いたします。

まず会議に先立ちまして、本日の出席者のご紹介をいたします。

まず、江藤 義行市長でございます。

○江藤市長

よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

続いて横大路 智毅教育長でございます。

○横大路教育長

どうぞよろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

席の順でご紹介させていただきます。

谷川 朋昭教育長職務代理者でございます。

○谷川教育長職務代理者

はい、谷川です。よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

今村 秀一教育委員でございます。

○今村教育委員

はい、こんにちは。今村 秀一です。どうぞよろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

木下 明子教育委員でございます。

○木下教育委員

はい、こんにちは。木下と申します。よろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

大内田教育委員でございます。

○大内田教育委員

はい、こんにちは。大内田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

小学校校長会長、木室小学校、宮崎 昌人校長でございます。

○宮崎小学校校長会長

宮崎でございます。よろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

中学校校長会長、大川桐薫中学校、鶴 由恵校長でございます。

○鶴中学校校長会会長

こんにちは。大川桐薫中学校の鶴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

大野島小学校、原尻 健司校長でございます。

○原尻大野島小学校校長

こんにちは。大野島小学校の原尻です。よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

続いて大川市の辻 悟企画課長でございます。

○辻企画課長

辻と申します。よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

龍 健司総務課長でございます。

○緒方学校教育課長

龍と申します。よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

山口 馨人事秘書課長でございます。

○山口人事秘書課長

はい、山口と申します。よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

生涯学習課、松延 聡社会教育主事でございます。

○松延社会教育主事

松延です。どうぞよろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

永島 潤一生涯学習課長でございます。

○永島生涯学習課長

よろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

学校教育課、古賀 孝志指導主事でございます。

○古賀指導主事

よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

同じく学校教育課、下川 勝彦指導主事でございます。

○下川指導主事

はい、よろしくお願いします。

○緒方学校教育課長

同じく学校教育課、石橋 佳明主幹指導主事でございます。

○石橋主幹指導主事

はい、石橋です。どうぞよろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

最後に私、学校教育課長の緒方でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、市長にご挨拶をお願いいたします。

○江藤市長

本日はお忙しい中、令和８年度総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
また、日頃から本市の教育行政の推進にご尽力をいただいております教育委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

本会議は、平成２７年の法改正に伴い、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題や歩み方を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置されたものでございます。

さて、本日は「少子化における大川市立小・中学校の在り方について」に焦点をあて、ご協議をいただきたいというふうに考えております。

全国的に少子化が進行する中、本市においても児童生徒数の減少が続いており、学校教育を取り巻く環境は大きく変化をいたしております。

子供たち一人一人にとって、より良い教育環境を将来にわたって確保していくことは、私たちに課せられた重要な責務でございます。

本日は、少子化という避けることができない課題に向き合いながら、大川市の子供たちにとって何が最善であるかという視点に立ち、忌憚のないご意見をいただきたいというふうに考えております。

皆様からいただくご意見を今後の教育行政にしっかりと反映し、未来を担う子供たちが安心して学び、健やかに成長できる教育環境の実現につなげてまいりたいというふうに考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○緒方学校教育課長

ありがとうございました。

では、ここからの議事進行は、大川市総合教育会議運営要綱第４条に基き、市長をお願いいたします。

○江藤市長

はい。それではまず、報告事項「学校における働き方改革の取組状況について」説明をお願いいたします。

○緒方学校教育課長

こちらにて説明させていただきます。

学校における働き方改革の取り組み状況について報告いたします。

資料として、お手元に「大川市教職員の働き方改革取組指針」と「学校における働き方改革の取り組み状況について」をお配りしております。「大川市教職員の働き方改革取組指針」については、大川市のホームページにも掲載しております。「学校における働き方改革の取り組み状況について」の資料を使って説明をさせていただきますが、その前に、まず、働き方改革の取り組み状況を、総合教育会議で報告することとなった経緯について、簡単に説明させていただきます。

大川市の教職員の働き方改革については、令和4年3月に策定した「大川市教職員の働き方改革取組指針」に基づき、取り組みを進めてきたところでございますが、国の方において令和7年6月に法律の改正が行われました。「公立学校の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」いわゆる給特法が改正されまして、改正の大きな目的としましては、教員の処遇改善、そして教員の働き方改革の加速と持続可能な学校運営の実現となっております。

教員の働き方改革を進めるため、働き方改革の計画及び実施状況について、総合教育会議で報告し、市長部局と連携することが義務付けられておりますので、報告させていただきます。

まず、働き方改革取組指針の概要をご説明いたします。こちらの「学校における働き方改革の取り組み状況について」こちらの方をご覧ください。

表題の次のところをご覧ください。まず、大川市教職員の働き方改革取組指針は、福岡県教育委員会が策定した「教育職員の働き方改革取組指針」に基づき、大川市教育委員会及び学校が実施する教職員の働き方改革の取り組みの方向性、目標、具体的取組等を示したものになります。

また、法改正により各教育委員会において定めることとされました、業務量管理・健康確保措置実施計画に位置付けたものとして、令和8年3月に改訂しております。

また本指針の趣旨・目的としまして、教職員がワークライフバランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいを感じながら働くこと、教職員が子供や自分と向き合う時間を十分確保し、学校教育の質を維持、向上させることを指針の目的としております。

次のページをご覧ください。大川市の目標として、時間外在校等時間、つまり、通常の勤務時間以外で学校にいる時間ということになりますが、時間外在校等時間に関する教職員一人一人の目標を、改定前と同じ月45時間以内、年間360時間以内とし、新たに令和11年度までに教職員の平均を月30時間程度とする目標を追加しております。これは福岡県教育委員会も同じです。

また、ワークライフバランス・働きがいに関する目標としまして、1年間の年次休暇取得日数を平均で18日以上という目標も追加しております。これも福岡県教育委員会と同じでございます。

次に大川市の現状としまして、令和7年度の時間外在校等時間を示しております。月45時間を超える教職員の割合は小学校で23.5%、中学校で34.2%。月80時間を超える教職員の割合は小学校1.9%、中学校2.3%。年間360時間を超える教職員の割合は小学校46.5%、中学校70.4%となっております。

最後につけております資料1、資料2をご覧くださいと思います。令和4年度以降の月45時間越え、80時間越えの教職員の割合の推移をグラフ化しております。資料1が月45時間越え、資料2が80時間越えになります。徐々に減少しつつも、下げ止まっている感はみられます。

資料の方、戻っていただきまして、年次休暇の取得日数の平均については令和7年で12.7日となっております。

働きがいがあり、ワークライフバランスのとれた職場環境となるよう、こちらも取り組みを進めていく必要があります。

次にこれまでの大川市での主な取り組みを記載しております。

校務支援システムの導入、学校閉庁日の設定、水泳授業の民間委託、勤務時間外等の自動応答電話の導入、小学校での2学期制導入、通話録音装置の設置など行っておりまして、令和3年9月からはＩＣカードにおける勤務時間管理システムを導入し、客観的に勤務時間が把握できるようにしております。

人的サポートとして、学習指導員や学級指導支援者、スクールサポートスタッフ、部活動指導員などを学校へ配置し、教職員の負担軽減を行い、教育の充実を図っているところです。

また、学校においても定時退校日や学校閉庁時刻の設定、学校行事の見直し、また、会議の見直しなど、工夫して取り組みを行っていただいております。

これまでの取り組みは、時間外在校等時間が徐々に減っていることから、一定の効果が出ていると言えますが、教員不足の影響もありまして、年度によって、また、学校によって、微妙に増えたり、減ったりしている状況です。

学校でできることはどの学校もやっていただいております、なかなか劇的には減らないという状況といえます。今後指針に基づき、なお一層、取り組みを進めていく必要がございます。

次のページをお願いいたします。こちらは、文部科学省が出しております、学校と教師の業務の3分類というものでございます。学校以外が担うべき業務、教師以外が積極的に参画する業務、教師の業務が負担軽減を促進すべき業務の3つに分かれています。

1番の登下校時の通学路における日常的な見守り活動は、大川市では地域学校協働活動での見守り隊のご協力や、4番の地域学校協働活動の関係者間の連絡調整については、地域学校協働活動推進員さんでやっていただいております。真ん中の9の学校プールの管理については、民間へ委託しております。

この3分類を踏まえつつ、少しずつでも業務の見直しを図っていきたいと思っております。

今後、学校現場と連携し、先進自治体の事例なども研究しながら取り組みを進めていくこととしております。

ＩＣＴを活用した業務の効率化や、部活動の見直しなど、目標達成のため必要な業務の見直しを進め、教職員が健康でやりがいと誇りをもって、教育活動に取り組める環境整備の一層の充実を図っていきたいと考えておりますので、ご理解ご協力をお願いしたいと思います。

説明は以上です。

○江藤市長

はい。学校教育課長より説明が終わりました。

それでは、今の説明を受けて、皆様より何かご意見ご質問等はありませんでしょうか。

何かありませんか。ないようですので、次に議題１「第２期大川市教育改革の期間延長について」説明をお願いいたします。

○緒方学校教育課長

はい。第２期大川市教育大綱の期間延長について、ご説明いたします。

この度、ご承認をいただきたいのは、令和６年度までとなっていた「教育大綱」を、令和１１年度まで延長させていただくというものです。

まず、改めてございますが、「教育大綱」と言いますのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、地方公共団体の長である市長が定める教育行政の大きな基本指針でございます。お手元に抜粋ではございますがお配りしております。

大川市の場合、「ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする、創造性豊かなひと」を目指す人間像としております。

その方針を基に、教育施策を具体化する計画として教育委員会で策定しているのが、教育振興基本計画、いわゆる教育振興プログラムでございます。

教育振興基本計画の策定期間としましては、市の長期総合計画の期間に合わせ、現在、令和７年度から１１年度までの５年間、第２期の後期計画として教育委員会の方で策定しております。

基本指針である「教育大綱」については令和元年度に第２期を策定し、教育振興基本計画の前期期間である令和６年度末まで延長した形をとっていたところではございますが、令和７年度以降の教育振興基本計画の後期計画の内容は、前期の内容を踏襲する形、つまり「教育大綱」の基本理念に基づいた内容で策定しておりまして、実質的に「教育大綱」を継続していると捉えている状況になっております。

この度、改めてではあります但し、期間を定めておりませんでしたので、総合教育会議で、市の長期総合計画、教育委員会の教育振興基本計画と策定期間を合わせまして、「教育大綱」の期間についても令和１１年度まで延長させていただきたいと思っております。

策定期間を合わせますと、今後は、市の長期総合計画、教育委員会の教育振興基本計画の見直しと同じタイミングで、「教育大綱」も見直しを行うこととなっていきます。

説明は以上です。

○江藤市長

はい。学校教育課長より説明が終わりました。

今の説明を受けて、教育委員より何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

ありませんか。ないようですので、それでは第２期大川市教育大綱の期間は令和１１年度まで延長することといたします。

次に議題2「少子化における大川市立小・中学校の在り方について」説明をお願いいたします。

○横大路教育長

はい、失礼します。座って説明をさせていただきます。

本日、「少子化における大川市立小・中学校の在り方について」ということで、テーマを設定させていただいております。

これまでの経緯を踏まえて説明させていただきますと、大川市におきましては、まず、平成27年の9月に大川市学校適正規模・適正配置化検討委員会、その答申を受けまして、平成28年の11月に策定されました学校再編方針によりまして、中学校の再編が行われ、令和2年度に大川桐英中学校、そして大川桐薫中学校が開校したところであります。

一方、小学校につきましても、将来的な児童数減少への対応が課題となっているところであります。

検討委員会の当時の答申では、大川市における市立小学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方としまして、まず、学校の適正規模として、6から18学級、1学年が1学級から3学級ぐらい。それから学校の適正配置としまして、概ね4kmとされました。

また、大川市における市立小学校の規模及び配置の適正化に向けた具体的な方策として、「適正規模、先程の適正規模に満たない学校が生じた場合、統合をすべきである。」と答申されました。

さらに付帯意見としまして、「小中一貫校若しくは義務教育学校といったものの設置に向けて検討する必要がある。」、また、「統合により通学路が変更になるため、児童生徒の安全確保に向けて検討する必要がある。」ということ、そして、「小学校においては、6から18学級を適正としていますが、やはりクラス替えが可能な規模、同学年に2学級以上に検討する必要がある。」、そういった付帯意見が付けられておりました。

平成28年11月の再編方針策定の時点では、小学校につきましては、適正な規模を満たしている。それは複式学級が発生していないということになりますため、当面は再編の対象としないとしていましたが、令和8年度、大野島小学校で複式学級が発生したところであります。

また、その他の学校におきましても、児童数の減少によりまして、学級数が減少しているところであります。

大野島小学校におきましては、実質は令和7年に複式学級が発生しておりましたが、当時は県からの配置対応ということで、教職員が1年限定であります、1人配置されまして、去年は発生していませんでしたが、今年はこの配置がございませんでしたので、今年複式学級が発生したということです。

こういった児童数の減少によりまして、学級数が減少するという以外にも、それにより教員配置に関します制約ですとか、また子供たちに関しましては、いわゆる学校行事が減少していくことですか、様々な課題が生じてくることが考えられます。

現時点の小学校の状況から、この答申内容を尊重すれば、学校の適正規模、適正配置に関して具体的な方策の内容を検討すべき時期となっていると考えます。

その前段といたしまして、本総合教育会議におきまして、本市の将来を見据えた小・中学校の在り方について、市長そして教育委員において率直な意見交換を行い、今後の方向性の検討材料とするものでございます。

こういった経緯、そして答申の内容を踏まえまして、改めて大川市の小・中学校の在り方についてご意見をいただきたいと思います。

以上です。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。教育長の説明が終わりました。

それでは今の説明を受けて、皆様からの質疑などございませんでしょうか。はい。

○大内田教育委員

教育委員の大内田です。

中学校が統合されて、実際統合された後の子供さんたちの学びでしたり、何かその人間関係とか、教師の困り感とか、何かそういったところの、その統合したことによっての変化というか、そういったところを何か参考に聞かせていただければという質問になります。

○江藤市長

いい質問ですね。はい、ではお願いします。

○鶴中学校校長会長

失礼します。座って失礼させていただきます。中学校が令和2年度に統合しております。

統合して良かったなと思っている点は、やはり生徒数、職員数が増えましたので、活気が溢れて、そういった雰囲気になったことです。授業や部活動でやはり人が増えるということは良いことで、教育活動が充実したように思っております。

それから職員の担当する校務分掌が、職員の頭数が増えましたので負担が減りました。これも職員にとっては良かったと思っています。

統合前は部活動ですけれども、統合前は部員数の減少で存続が困難な状況の部もあったのですが、統合により継続できたことも良かったかなと思っています。

そして課題で困ったことといたしますか、まず校区が広がりましたので、一部大川桐薫中学校はバス通学の生徒がいます。そのためにバスの時間的な制約があり、例えば放課後の補充学習、行事の準備、委員会等、教育活動がやりづらい部分は正直今もございます。

徹底して最後まで行うことが、バスの時間があることによって、ちょっと難しい状況は今も続いております。

学校としてはバスが出せなければ、子供たちは自転車なり何なりでなんとか登校してきているので、通学バスの必要性はさほど高くないと考えてはおります。それから広範囲化しましたので、雨の日の送迎が統合前よりも数倍増えたような気がしています。雨の日はほとんど自転車で来ません。車がずらっと並ん

で、校舎の敷地内は渋滞が見られます。場合によっては交通事故の心配もありますので、非常に危険だな
とっております。

それから、2つの学校が1つになりますので、諸組織の再編といいますか、子供達の生徒会組織、校
則の見直し、学校時程の確認など、早急に2つの中学校の違いを合わせなければならないことと、統合前
の学校の雰囲気、生徒指導の在り方、行事の進め方、掛け声や号令とか、そういった細かいところまで、
いわゆる文化的な違いもあり、こういったことは時間をかけて2つの文化を融合させてきたのですが、こ
れもすぐにはできなかったのも、非常に困ったこともございます。

それから学校のPTA組織、それから学校運営協議会の会員の皆様ですね。統合時がコロナ禍で休校中
でしたので、なかなか役員さんが顔を合わせる機会を持てなかったのも、そこもちょっと進め方が難しか
ったかなと思っております。以上、参考になれば幸いです。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

○古賀指導主事

すいません。学校教育課の古賀といいます。私、大川東中学校の最後に校長を務めさせていただいて、
大川桐薫中学校の初代の校長を務めております。

そうですね、鶴校長先生もおっしゃったように、成果と課題はある程度はつきり述べていただきまし
た。ただ、その前の段階で案外大きかったのが、学校文化の違いをどうやって越えようかということで、
1年前から、大川東中学校の先生方に、中学校は空き時間が授業の合間がありますので、三又中学校に行
っていただいて、三又中学校の授業を見ていただくとか、子供たちの様子を見ていただきました。同じよ
うに三又中学校の先生方に大川東中学校に来ていただいて、実際に生の子供たちの姿を見ていただきまし
た。そういう取り組みもやりました。

それから、生徒会組織の摺り合わせで1点加えるならば、1年間は生徒会長2名体制です。そのまま
三又中の生徒会長と大川東中学校の生徒会長が新しい学校でという形でやりました。制服も卒業するまで
はそれぞれ前の学校のやつでいいですよ。そういうふうな摺り合わせの部分で、特に敷地がどうしても
東中の後にできたので、非常にこう何て言うのですか、統合なのですね、ところが吸収みたいにして
もらっては困るというような部分も、非常に三又中学校の保護者の方々、東中学校の保護者の方々に配慮
して伝えたことを思い出します。補足になります。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

その他何かございませんか。はい、どうぞ。

○木下教育委員

今、大川桐薫中学校と大川桐英中学校は統廃合したことによって、子供たちの取り巻く環境もすごく大
きく変わってきたと思うのですけれども、その中で1番聞きたいのは、やはり子供たちの生の声、実際に

経験した子供たちの声や保護者の方々の声というのは、どういったものが上がってきたかというのを、ちょっと分かる範囲でいいので、良い点と悪い点、両方あると思うのですけれども、ちょっと教えていただければと思います。

○鶴中学校校長会長

失礼します。やはり2校の生徒たちが1つの学校で生活するようになりましたので、最初はやはりなかなかコロナ禍明けで、2ヶ月間は休校でしたので、5月の終わり、6月ぐらいからの共同での学校生活が始まったかと思うのですが、職員も含めて、やはりちょっと遠慮しあうことや、生徒はやはり様子を伺うというか、そういった部分は見られました。

そして、私はその統合前は東中にいて、統合の時は桐英中に1年間いたので、ちょっと桐薫中の統合後の様子はよくわからないのですが、当時のことは古賀先生がいらっしゃいますけど、ちょっと心配をするような、どっちの中学校かとは言えないのですが、悪い方に引っ張られたら困るよねって心配を統合前にしていて、実際蓋を開けて統合したら、良い方に子供たちの集団が引っ張られて、割と全体としていい方向に向かっていったと聞いております。それで、桐英中学校の方は、そうでうね、自分が3年生の特別支援学級を担当していたせいもあるのですが、特に子供たちが特に困っている様子は見られなかったように思っています。ちょっと1、2年生のことまでははっきり覚えていないというか、3年生担当だったので把握できていないのですが、桐英の統合当時の3年生はスムーズに、卒業まで学校生活を送っていたと思います。当時の桐英中の先生もいらっしゃるの、石橋先生、もし何かあれば。

○石橋主幹指導主事

私は2年生を担当してました。その時は、教務もさせていただいていたのですが、最初1番心配したのは、子供たち同士でトラブルが起きるのではないかとということを中心に気にはしてたのですが、前年ぐらいから一緒に行事を行ったりとか、いわゆる、宿泊訓練みたいなものも一緒に行ったりしてましたので、1、2年生の大きなトラブルとかもなかったと思います。

子供たちの声ということを先程ちょっと言われましたけど、やはり子供たちの心の中ではやはり色々な思いがあったのではないかとというふうには正直思っております。実際それを聞いているわけではないのですが、実際やはり色々な文化でしたり、今までやってきたことが全く違いますので、慣れるまでには時間がかかりましたが、今6年経ちまして、もう7年目になりますが、それは当たり前みたいな感じにはなっていると思います。そういう現状です。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。その他何か。

○今村教育委員

教育委員の今村です。統合によって良かったところ、苦勞されたところということをお話いただいて、そうなのかと今実感で思っております。

私が平成31年、平成最後の大川市PTA連合会会長をさせていただきました。その後、統合が予定

されておりましたので、その中で各小・中学校のPTAの役員さんとお話、会議をする場がありましたけれども、その後の連合会の形というものをまず策定して、何もわからないまま進んだわけですけど、それが最近の連合会に少しだけ携わる機会があると、それをさらに形を変えて、意見を聞くだとか、組織が速やかに運営されている状況を拝見させていただいてますけども、小学校6年と中学校3年、中学だけに限ると7年目でふた回りということなので、さらにその地域の理解が、保護者と教育受けてる子供たちのこの環境下での、らしさということが是非反映されていくといいなと思っています。そうすることが、今日も議題の中にもあるのだと思いますけども、小学校の、先程の複式学級ではないですけども、そういった学校が出てきたということもありますので、どうしてもその先の、勿論考え方は色々ありますが、それが全てではないのですけれども、次の小学校の統合だとかいうことをやはり真剣に考えて、子供たちに何が1番いいのか、そしてその保護者が求めているものは何なのかということで考えて、次のステップに進めるといいなと思っている次第です。

それで、伺いたいことということになってますけども、次の形をどういうふうに進めていくのがこの大川市の教育、子供たち、そして少子化ですけども、むしろ大川市に集まってくれるような、そんな教育環境になるようにできればいいなと思いますので、そういったお話が今日聞きたいなと思いますので、そういった話が今日できると有難いと思います。ですので、とりあえず質問というのは今現時点ではないので、先程のメリット・デメリットを含めて、何かご意見やお話にあがったら、私も何か思ったことがあればお伝えしたいなと思います。

以上です。

○江藤市長

はい、ありがとうございました。

では、最後に谷川さん。

○谷川教育長職務代理者

はい、谷川です。失礼いたします。

先程から色々な方からの話の中で、中学校再編についての話が多く出てまして、再編から7年が経って、当時4中学校から2つになるという年でしたので、当然先生方もそうでしょうし、子供さんたちもそうでしょうし、保護者の方たちも同じように心配をされたり、苦勞されたりすることはよくあるだろうというのは、私も次男が丁度再編の時に中学生でしたので、大川中から桐英中の再編、ちょうどその真ん中の時で、うちの息子に関してはさほど抵抗、違和感なく中学生生活を送ったように親からはそのように見ましたが、色々なことがあったにせよ、今、現状、どちらの中学校も再編して良かったのではないかなというようなことを学校訪問で子供たちの姿とかを見る限り、良い再編だったんだろうというふうには思っております。

そんな中、今、今村委員さんからも言葉ありましたけれども、昨年度は乗り越えたという大野島小で、今年からいよいよ3・4年生が複式学級になって、それが大川市内では初の複式学級だつていうというこ

とで、今後大野島小以外でもそういう状況になる小学校が出てくるようなことも考えられます。

現状を原尻校長先生に尋ねです。複式学級の現場で、子供たちの様子とか、先生方の様子とかを見られて、複式学級をどのように捉えてあるのか、どのような感じでこう見えてあるかというのをちょっとお聞きしたいんですが。よろしくお願いします。

○原尻大野島小学校長

失礼します。大野島小学校ですけれども、大野島小学校は児童数が少なくなっておりまして、現在 48 名の児童数となっております。

複式学級というのは 3 年生と 4 年生で行っておりまして、1 人で 2 つの学年の異なる内容の指導を行う場合もありますし、まず 1 人で同じ教材を使いながら、学年によって少し狙いを変えながら指導していくという場合もありまして、子供たちがその環境に慣れるのかなと思っていたのですが、子供たちの方が慣れは早いという感じで、落ち着かずに授業に集中できない、勿論そういう気になるお子さんもいらっしゃいますが、ほとんどのお子さんが授業に集中して取り組むことができているということは、安心して学びに進めていけるかなと思っているところです。

私、1 学年が 2 学級以上で 14 学級以上あった学校の経営を行ってまいりましたが、そういった学校と比べても、子供たちが不利益を生じているなというようなことは全く感じずに、子供たちの学校満足度と言うのでしょうか、学校は楽しいというお子さんの数は割合的にも大野島は非常に高く、子供たちは充実して学校生活を送れているのではないかなと思っているところです。

職員の方につきましては、昨年から準備は進めてきたのですが、年度当初では、やはり、授業の内容の質が落ちるのじゃないかとか、不安な声がたくさん出てきておりましたが、それも最初の方だけで、最近もこの複式の学習の進め方について賛否はあるのですが、どちらかというと、どうすれば子供の教育の質をもっと上げられるかというようなことに職員の気持ちも変わってきておりますので、職員の方も充実しながら教育活動が行えているのではないかなと思っているところです。

ただ、2 つの教材について準備を進めたり、教材研究を進めたりということには、やはり時間内での時間を作ってあげたりとか、そういうことも必要ですし、相談に応じたりとかの体制も必要ですので、そういう方面については、私と主幹教諭の方で色々な工夫をしながら時間を生み出して進めているところで、今回当初の方でありました時間外勤務の方も大野島は非常に少なく、ワークライフバランスも非常に取れている学校ではないかなと思っているところです。

以上です。

○江藤市長

はい、わかりました。ありがとうございます。

他に委員さんから何かご意見等ございませんか。

○今村教育委員

校長先生、ありがとうございます。学校訪問をさせていただいて、やはりそのような良い形というか、

学びだとかいうことを本当に感じられる子供たち、先生方の姿だと思います。

その中でやはり先生方の、所謂やりがいとか、ワークライフバランスだとかいうこともありますけど、子供たちもその多様な、少人数ではないところで得られる、これも大きなメリットがあると思います。が、そういったところをどうしたらいいのかなというところが、今の体制だとなかなかできないと思いますので、そういったところとか、そして、安定した基本的、基礎的な学力、基礎から応用に入っていく流れ、そして、多くの人、多くの仲間と時には競い合うということもありますけども、そういった環境も何か必要なのではないかなと思う中で、先生方も苦労されていると思いますし、先程、鶴校長先生がおっしゃいましたけども、先生方がやはり複数人いらっしゃることによって、少子化とは言いますが、先生方の数も減ってきますので、確保という言い方は正しいのかかわりませんが、そこをしっかりとどうにか確保したうえで、子供たちもそういう多様な繋がり、それが逆に合う合わないがあるとは思いますが、クラスが多いことによってクラス替えができる、そのことで解消に向かったり、次のまたコミュニケーションが進められるということがあるので、そういったところに対する状況はどう感じていらっしゃるのかなというところをお伺いしたいのですが。

○原尻大野島小学校長

複式学級になったことで、今までだったら同じ教室で学ばないお子さんたちと学びを進めておりますので、トラブルであったりとか、違う学年のお子さんとは当然そういうことも起こってきておりますので、人数が多ければ多いほど、そういう人とのコミュニケーションだったりという機会が増えるということはおっしゃる通りだとは思っています。

ただ、先程申しましたように、学校満足度として高いということとか、あらゆる方々との関わりという面で考えると、本年度からの取り組みではあるんですが、地域の方々も学校の方に来ていただくことで、学年、子供たち同士の関わりだけではできないようなところを地域の方にサポートしていただくようなという取り組みも行うことはできるだろうし、後は、ICTの活用を図っていくことで、他校との交流も勿論できるでしょうし、そういったことを私たちが工夫しながら考えていくことで、子供たちに不利益が起らないようには取り組みを、色々なことに挑戦できるという意味では、職員も充実しているというか、やりがいもあるということと、子供たちにとっても良い環境であったのかなと考えているところはあります。

その大きな1つの理由に、大野島のお子さんで、中学校に行って不登校兆候のお子さんとかがいらっしゃるとか、ゼロではないとは思いますが、そういうことも聞かないし、私も卒業式等に参加させていただいて、生徒代表で大野島のお子さんが活躍していることもありますので、その辺りについては、大野島の中での経験もしっかり大きな学校の中に入っていったところで霞むというようなこともないかと思いますので、今できている体験を充実させていくこともひとつ複式の中では重要なと考えています。

子供たちも喜んで登校できておりますので、具体的な声、子供たちから感想はまだ聞いておりませんが、私の感想になりますので、以上です。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

複式学級が始まってもう4ヶ月ですかね。他に例えば子供さんたち以外に、私からの質問になってしまっていますが、親御さんからの意見とか質問とか何かありましたか。

○原尻大野島小学校長

やはり複式学級については今までにない取り組みでしたので、保護者の方からも直接私の方には声はあがってきてはいないですけども、担任の方には当然、学級運営のことでしたり、不安な声もあがってきておりますし、懇談会の中でも、やはりこうやって色々な関わりもできていることなど、複式になったことで新たな人間関係もできるので、今はそういうところも見守って、私たちが協力していきましょうという声もいただいております。

複式に関する声が少しずつ、どうなんだろうという声も少しずつあがってきておりますが、複式学級になっても変わらず学校と一緒に子供を育てていきましょうという保護者のスタンスは変わってないかなと思いますので、そこは大丈夫かなと思っていますところでは。

ただ、今後子供の数が減ってくるっていうのは皆さんも承知されていると思いますので、その辺の深いところまではちょっと私のことではわからないところです。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

その他、今日は校長先生も来られていますから、経験などをお伺するとか、何か質問とかご意見とかあれば、是非お願いしたいなと思います。

何か他にないでしょうか。谷川さん。何かないですか、長年の経験で。

○谷川教育長職務代理者

先生方は異動があるじゃないですか。それで、複式学級は結局2学年を1人の先生で子供たちを見ていくということで、同じ学年の子供たちを1つの教室で1担任が見ていくのとは、ちょっとまた特殊かなという感じが私はするのですが、その辺は先生方の異動もそこを考慮して異動を考えるのでしょうか。現状、どれぐらい今の大川市内の先生方で、複式学級の指導ができるという言い方は変ですけども、今大野島に1人いらっしゃるのですよね、現状、複式学級を見てる先生が。その先生以外に大川市内の先生方で複式をみれる、例えばもう今年から大野島小で複式学級なので、それを踏まえて、現状、市内の先生方が複式について、大野島の授業を見に行かれるとか、複式についての勉強をされるとか、そういうことしてあるのかなと。ある先生だけという状況もあるかもしれませんが、あるのでしょうか。

○原尻大野島小学校校長

本年度から複式がスタートするに際し、昨年から少しずつ取り組みを始めておりました。1つの教室で2つの学年が一斉に学習する方法について、職員研修を行いながら、本校の職員については、ある程度このような方法というのはイメージができていたと思います。

本年度スタートした時も、1人の教師が複式に取り組むのではなくて、いくつかの教科を4名の教師が担当することで、本校で4名が複式学級での授業を体験しておりますので、その職員で研修時間を使いながら、複式学級で困ったことでしたりとか、こういう取り組みが良かった、子供の姿がどう変わっているのかというのを、共有し合っておりますので、複式についての理解は、本校職員の方は少しずつは高まっているかなと考えているところです。

また、異動という言葉が出ましたので、異動の時にやはり職員の気持ちとして、やはり複式の学級、学校では難しいなという場合はもう、それもちょうと伝えてくださいというようなことは、私にどうできるわけではないのですが、伝えてくださいということで、複式だからちょっと違う学校を希望するという職員は誰もいませんでしたし、大川の職員の先生の中にも、そういう複式だから、その学校ではできませんというような先生はいらっしゃらないということも分かりましたので、その辺は安心できるかなと思っております。

また9月に入って、学校再開された後には、今度、道海島小学校の方も複式の可能性も出てきたということで、先生方が本校の授業の様子を視察にも来るのがもう決まっておりますので、それで少しずつ、準備を進めながら行っておりますので、そこは私が言うのも変ですが、ご安心いただいてもいいんじゃないでしょうかということで、如何でしょうか。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

大野島は、複式学級の先進地になれるかもしれませんね。

はい、ありがとうございます。それでは、今村さん他に何かないですか。

はい。何かありますか。

○木下教育委員

本当に話を聞いて、新しい取り組みと、素晴らしいチャレンジをされていると思って、改めて本当にそのことに関して感謝をお伝えしたいぐらい素晴らしい取り組みだなと思います。

今日の議題は、「少子化による大川市立小・中学校の在り方について」というところだったかと思うのですがけれども、そういった中で新しく複式学級の取り組みをされていたりですとか、こういった少子化が進んでいるという現状を少し目の当たりにしていく中で、2つだけちょっと意見があります。

まず1点目が、2020年に大川市はある意味、中学校の適正規模の配置によって、ある意味2つの大きな教育圏ができたかなと思うのですね。これが、本当に取り組んでもらえた古賀先生でしたり、現場におられた先生たちも本当に大変だったかと思うのですがけれども、ここでまた新しい光がちょっと見えつつあるのかなという思いもあります。

というのがこの2つを中心に核として、それぞれの小学校が少しずつまとまってきているというのを、鶴先生がおっしゃっていた子供たちの様子を伺っている中で、聞いているお話しから、やはり素晴らしい点がたくさんあるなと思います。その中で大変なところもあるかもしれないですが、この大きな教育

圏2つを核として、例えば小・中学校9年間を長い目で見通した教育の在り方だとか、または今、盛んに先生方がしてくださっているICTの活用であるとか、例えばこの先、スポーツの行事、これからの活動の在り方についても、色々大きく方向性が変わってくることを文科省が提示していらっしゃると思いますので、そういったところについても色々な方策がまた出てきてくるのかなと思っております。

もう1点が、やはり主役は子供たちということで、やはり子供たちの生の声、子供たちがそういったこれからの大川をどうしていきたいのか、自分たちはどういう教育を受けていきたいのかっていうところを、子供たちに議論させる場所と言ったらちょっと大きすぎるんですけども、例えば、教室の中でもどこでもできると思うのですよね。だから、子供たちにどういった大川の学校の在り方、どんな学校を作っていこうかなというのを先生たちはいつも聞いてくださってると思うのですが、それは延長線上ではないですけども、しっかりと自分たちが大川の未来をこう作っていきたくて思ってもらえるような、何かそういう機会を私たちの子供が作っていけるチャンスにもなるのかなということも少し思っております。

以上です。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

木下委員、なかなか難しいですね。木下さんの意見がありましたけど、何かございますか。

よろしいですか、はい。

○大内田教育委員

今回、それこそ大川の子供たちのために、どのような学校作りをしていくのかっていうところで、色々なデータを見させてもらう中で、大野島小学校で複式学級となって、もう9年、10年で間違いなく少子化になってますよね。再編するということが現実的にちょっと考えなければいけないような状況になっているのだろうなと思うのですね。

その中でも、令和2年に中学校が統合したというところで、子供さんも、大人の意見というのも勿論大事ですけども、先程もおっしゃられてるように、子供さんたちの意見、やはり言えない心の内、やはりすごくこう影響されたのではないかなと思うのですよね。子供さんたちは中学校が統合したことによって、色々な苦楽があったんじゃないかなと。何か当たり前に言われますけど、本当に学校に行き続けられる環境を、先生方たち、大川市の保護者さん、地域を支えている方たちの力もあったとは思っているのですよね。

ただ、その中で、やはり子供さんたちの声というのがなかなか大人に届いてこないというところを、私も何かしらこう考えていきたいなとか、やはりリアルに感じてきたのは子供たちだと思うので、やはりこの子供さんたちの意見も、やはりこう、保護者さん、地域の方たちに伝わるような、何かしらこう学校だけではなくて、その地域、私たちも含め、何か一緒に力になれることはないかなというのはすごく感じました。

この意見を基に、子供さんたちにも参画してもらって、そこでやはり意見を、やはり今後の小学校の再編というところに、中学校の先輩たちからの意見もちょっと取り入れながら、一緒に子供たちのための学

校作りができればいいなと思ってます。

以上です。

○江藤市長

はい、ありがとうございます。

他に何かございますか。教育委員さん、よろしいですか。はい。

○谷川教育長職務代理者

はい、ひとつだけ。教育委員として色々な話をして、校長先生が話をされて、現状が見えてきた中で、市長に質問です。

市長は、大川市の教育というか、小・中学校の現状について、今、先生方のお話を聞かれて、市長の教育に対する思いとか、現状、大川市の小・中学校の規模とか、適正規模なのか、適正配置なのか、そうした部分をお考えになって、大川市の子供たちにどのような教育を望んでいるかというのをちょっと聞かせていただけたらと思います。

○江藤市長

そうですね、私たちの頃は1学級で40人から50人いたのですよね。少子化が進んで、複式学級というような名が出てきた時には、私自身もびっくりしているところです。それで、今日教育委員さんが言われたことは、昨日の例の講演会、あれがある意味、すごく通じるかと、あの講演聞いて、私もびっくりしました。初めてあの講演を聞きましたが、本当に良い内容だったと思います。

それで、教育長にも私の教育のことについて、こういうふうにしたいということはすぐ言っています。そうしないと駄目だということまで言ってます。非常にハードルが高いのですが、そうしないと大川というのは、大川の街の特殊性も絡めてこんなふうにしてくれということを伝えています。

それで、いずれ、是非そこにたどり着けるように、やっていただきたいという思いがあって、この場で発表できるかどうかはわかりませんが、やはりそういうような特色のある学校がやはり必要じゃないかなと。こういう国際化に向けて、大川でも様々な教育ができないか考えてます。それで他の色々な先進地の教育委員会とも今やり取りをさせていただいております。いずれこのことについても話をできる日が来ればなと思います。そういうことで、今回は具体的には言えないのですが、元々最初からそういうことを考えてます。

以上です。

はい、何か他にございませんか。はい、皆様から様々なご意見をいただきありがとうございました。では、教育長から何か今後の方針等をよろしく願いいたします。

○横大路教育長

宮崎小学校校長会長、今小学校の子供たちの数減ってるとか、そういった状況について、小学校全体として、どんなふうに対応していきたいですか。

○宮崎小学校校長会長

小学校全体でということですが、大野島が今年から複式学級、道海島もそのうちというようなお話しの予想は聞いておりますので、心配は当然しております。

小学校の方では、どの学校も自己調整学習というのを少し始めていて、大野島は先進的に進めているところらしいのですが、自分で学びを構築して進められる、それが複式学級にも対応できる考え方だと思いますので、それをどの学校も少しずつ始めています。

ただ、それだけではありませんので、当然あの複数ある学級、たくさんの学級の中に子供がいる、学校によっては1クラス40名近いような人数がいる学校もあります。そこにもやはり良い教育を行っていかねばいけませんし、大野島や道海島のように人数が少ない学級、その中で子供たちをどう指導していくかということにも重点を置いていかないといけない。その中で、話の途中でありました異動によって先生方もどんどん変わっていきますけども、変わっていくことで、その学校の良さや、その学校の子供たちのより良い教育を進めていこうとしていますので、なお一層、小学校、勿論中学校ですけども、良い教育ができるように頑張っていきたいと考えているところです。

以上です。

○横大路教育長

はい、ありがとうございます。活発な議論をしていただきまして、中学校を再編しましたが、実際、その苦労とか、現状どうなのかということをフィードバックいただきまして、多分、今の中学校が簡単にはいかなかったのではないかなということがわかりましたし、大野島小学校の複式の現状、今年から始めて、去年から準備してきましたが、すごく努力していただいて、子供たちの学校満足度とか学力とか、決してその劣らないっていうこと、ある意味小規模校の良さとか、それをしっかり理解していただいているということも分かりました。

来年は道海島小学校で複式が発生します。来年は大野島小学校では2学年複式学級になると思います。そういう意味ではこれから大野島、道海島に限らず、大川市内の子供たちの数も減っていきます。その中で、やはり子供たちにとっての最適な教育環境というのをどんなふうにつけていくか、そしてさらに先の子供たちの人数の推移というのも出ておりますので、将来推計を踏まえた、そういった計画的な学校配置ということについて、検討する時期ではないかなと、検討を進めていきたいなと思っております。

勿論そこには保護者の声、子供たちの声、地域の声、色々な声を聞きながら、結論ありきではなく、そのための検討と。前回の中学校の例でいきますと、検討委員会に諮問して答申をいただくとか、そういったことも視野に入れながら、進め方の検討をしていきたいなと思っております。

市長からは大川の将来の未来に繋がるような特色ある学校、ただ単に学校の数を合わせるのではなくて、どんな教育をしていくのかということをおっしゃっておりますので、結局はそこかなと思います。

子供たちのために、大川の将来のためにどんな教育環境を作っていくかということで、検討をしていきたいなと思っております。今ここで何と決めるというのではなくて、今後の方針として私のまとめとさせていただきます。

○江藤市長

はい、ありがとうございました。

本日は教育委員の皆様や校長先生方の貴重なご意見を聞かせいただく機会を設けることができ、有意義な会議を開催することができました。

少子化は避けられない現実ではありますが、未来の子供たちにどのような教育環境を作り上げていくのかという視点で、今後も議論を重ねていきたいというふうに思っております。

今後とも大川市の教育振興のため、教育委員の皆さまお力添えをよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

○緒方学校教育課長

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。長時間になりましたが、ご協議、誠にありがとうございました。